

郷土研通信



アカエゾマツ

樹肌は赤みのある褐色。川湯温泉には美しい群落があり環境省の重要植物群落

細川音治著『阿寒・摩周の植物』から

近況報告

○町内郵便局 小型印ラリー

弟子屈町内の郵便局では、阿寒摩周国立公園90周年を記念した「小型印（消印）」をつくり、町内の四局（弟子屈・川湯・美留和・屈斜路）を巡って台紙に郵便切手を貼付して小型印で消印



すると大相撲錦絵師木下大門氏（弟子屈町出身）の歴代横綱を描いた錦絵がプレゼントされるそうです。詳しくは郵便局へお尋ねください。

スタンプ台紙は美留和郵便局（当会の前田さん）が制作を担当し、『阿寒国立公園』誕生の三恩人の文を載せられています。

なお、例会に出席した会員には前田さんのご厚意で四局の小型印で消印した台紙がプレゼントしていただきました。

○水越武氏 自然写真展について

計画書を作成し、例会出席会員に配布しました。出席できなかった会員には別添で配布します。次回の例会で内容を説明し協議したいと思っています。

○種市資料の 移動について

教育委員会、設置予定にある観覧席の固定を解除

して、郷土資料収蔵庫へ運搬する運びになっています。運搬の日程が決まりましたら郷土研でもお手伝いを考えています。

○特別講演会収録集

令和六年一〇月三〇日の例会で行われた、高瀬英雄元松浦武四郎記念館館長の講演記録を小林会員が文字起こしをして「収録集」を作成していただきました。

例会に出席した会員に配付されましたので、欠席された会員には次回の例会に出席された時に配付します。



勉強会

オーラルヒストリー
てしかがの昔を語る程度

話者 高田 中 氏

氏の生い立ちから電器商の営み、弟子屈町商工会長時代に弟子屈町をにぎわした「弟子屈町商工業組合問題（聴き取り者仮題）」の解決に到ったこと、原野の詩人更科源藏と高田氏家族のことなど、高田氏が経験された知らされる貴重なお話しをお聞かせくださいました。

会員から、郷土研にふさわしい弟子屈の歴史の一面しを聞くことができ、と感想を聞くことができました。



次回の例会

令和七年二月一九日（水）

一九〇〇

ふるさと歴史館

勉強会

未定

むかしむか史写真館

No.350



写真-1

ひ望ど湖路斜屈と泉温湯川はの遙より頂々山黄硫

「硫黄山々頂より 遙かに川湯温泉と 屈斜路湖を望む」

昭和五年前後に撮影された「つつじヶ原」の絵はがきの写真です。筆者がほぼ

同じ場所から撮影した現在の写真（写真2）と比べると、約一〇〇年もの歳月が経過しているにもかかわらず、人工物を除けば風景はほとんど変わっていません。

左手には、かつて硫黄精錬所の建物が残っている様子が写っており、現在では駐車場とレストハウスがある場所には、当時、砂礫地が



写真-2

広がっていたことが分かります。

この硫黄精錬所の建物は、明治二〇年に安田善次郎によって建てられました。標茶町史には次のように記されています。

「安田は硫黄山の北側に新しく製煉場六棟、荷造所一棟を建て、その付近に坑夫小屋一棟及び倉庫一棟を新築している」

ここで「新しく」とあるのは、安田が鉾山の経営権を取得すると、多額の資金を投入し鉄道の敷設とともに新たにここに最新式の精錬所を建設したためです。

この写真が撮影された当時、これらの精錬所は建設から四〇年余りが経過しており、すでに使用されていませんでした。現在、この建物は完全に姿を消していますが、今でも現地にはレンガや瓦礫の残骸が残されています（写真3）。

ところで、この絵はがきの写真には「硫黄山山頂より望む」とキャプションが記されていますが、実際には山頂から撮影されたも

写真-3



のではありません。この写真は、硫黄山の山頂から谷を挟んだ東側に位置する標高三三七メートルのピークから撮影されたものです。現在、この場所はアトサヌプリのトレッキングツアーで下山前に最後に登る「認定ピーク」として知られています。

この写真が撮影されて数年後、この地域は阿寒国立公園に指定され、つつじヶ原一帯は現在では特別保護地区にも指定されています。これからの一〇〇年後も、同じように美しい風景が守り続けられることを願います。

（安藤 筆）